

広報 
No.712
令和5年

いいたて

6
2023

今日はたんぼが教室です



the most beautiful
villages
in japan

飯舘村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

目次 CONTENTS

- 2 話題「長泥行政区の新たな一歩」
- 4 特集「いいたてで生まれる新しい風」
- 10 学びの広場「いいたてっ子運動会」
- 12 **NEW!** 空から百景「大火山のツツジ」
- 14 お知らせ「固定資産評価審査委員」ほか
- 15 ほけんとふくし「ワクチン接種」
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 19 村からお知らせ
- 20 いいたてイノサル通信
- 21 お知らせ／ふれあい館だより
- 22 いいたてDIARY／村民広報委員コラム
- 23 ひとのうごき ほか
- 24 ほっとNEWS ほか



今月の表紙

5月25日、森永正男さん(前田・八和木)の水田で、いいたて希望の里学園の前期課程の児童が、田植えを体験しました。粘土質の泥に足を取られながらも、みんなとても楽しそう。心を込めて苗を植えていました。ウグイスも盛んに鳴いて、みんなの頑張りを応援していましたね。村民ボランティアの皆さん、温かなサポートをありがとうございました。

避難指示解除から一歩を踏みしめて

5月1日 長泥地区の特定復興再生拠点区域等の避難指示が解除されました

新しいコミセンで落成式
住民の笑顔が集いました

5月1日、長泥地区の特定復興再生拠点区域及び区域外に整備した『長泥曲田公園』の避難指示が12年ぶりに解除されました。当日は関係者の他、多くの住民が現地を訪れ、ふるさとの新たな一歩を見守りました。また、同月21日には、新しい『長泥コミュニティーセンター』で、行政区が落成式を開催。より多くの住民が新施設に集い、ふるさとでの再会を喜び合いました。

5月1日 避難指示解除

避難指示解除の刻限5月1日の午前10時から、地区の入口に設けられていた6か所のバリケードが順次開放され、許可証不要の通行が再開しました。続いて『長泥コミュニティーセンター』では竣工式が行われ、杉岡村長が「自分達の手でふるさとを再生していこうという長泥の皆さんの気持ちに寄り添えるよう施策を考えていきたい」と共に歩む決意を語りました。



行政区の皆さんが落成式に集う



5月21日には、行政区が『長泥コミュニティーセンター』の落成式を開催。来賓を合わせて77人が参加して、記念の植樹も行いました。

コロナ禍の影響で交流会が休止されていたこともあり、式後の会食の席では、「久しぶり、元気だったの」と近況報告に一層花が咲きました。宴もたけなわになると、参加していたおばあさんがマイクで歌い出し、それに合わせて踊る人もいて、会場は懐かしさいっぱいになり盛り上がりました。



IAEAとの意見交換会

5月9日、IAEA(国際原子力機関)が長泥地区を視察し、村や住民と意見を交わしました。出席した住民4人は「マイナスからゼロに戻すため必死に頑張っている。私達のような辛い思いをする人はもう出してほしくない」「ふるさとを投げ出さなくて12年間通っていた。花を育て皆さんに来てもらえる環境をつくっていききたい」などそれぞれの思いを伝えました。発言を受けIAEAの委員は「心に届いた」「苦勞を耐え忍んだ強靱さを尊敬する。力になりたい」と話していました。





山田 豊さん

Yamada Yutaka (関根・松塚)

「お肉屋さんとして、飯館の牛の肉のよさ、おいしさを伝えたい」。仔牛を含め約150頭の黒毛和牛を飼育する山田さん。自宅の横に設備を整え、精肉店の開店準備を進めています。「常時開けている店ではなく、前日か前々日を目安に注文をいただき、切りたてのものを販売します。今までは塊肉で道の駅やレストランにしか提供できなかったのですが、この場所ができることで、切り分けて販売し、一般の方にも味わっていただけるようになります。用途に合わせてスライスしたりミンチにしたりもできます」。

山田さんが精肉店の仕事と出会ったのは避難先の京都でした。「勉強する時間が持たず、サシがあるからとかどこが産地だとかにとらわれず、おいしいものはおいしいと正直な評価をする。そういうお肉屋さんがあると、農家もそういうお肉をつくる。自分も、県産の牛肉が地位を回復し値段が少しずつでも上がっていくような挑戦をしたいと思っています」。

避難の直後はもとよりその後長い間「村で営農を再開できるイメージが持てなかった」と言う山田さん。「牛舎を建て3年ほど経った頃によくやく」村で精肉店を開業しようと心に決め、建て替えた自宅に家族で戻って来ました。再び村で暮らし始めて半年が経った頃、家族で食卓を囲んだ朝に「あ…本当はこうだったんだ」と感じる瞬間があったそうです。そして今、長い道のりを経て、飯館村に新しい精肉店が誕生しようとしています。

「まだまだ地元の商品が少ない中、少しでも村のものが並ぶようになるといいなと思います。全国の農家と同じ悩みはあるけれど、被災地の農家だからという感覚ではなく、挑戦を続け、農地を守っていきたい」。

精肉店は夏が本番を迎える前に、オープンする予定です。



経産牛は赤身の深い味わいが魅力。写真は山田さんが提供した牛肉を使った「田舎レストランLaKasse(ラカッセ)」の一品。



松塚地区の自宅横に構えた店舗。現在はお肉をさばくスペースとして内部を整備中。商品は入口横の窓口から受け取ります。

飯館産の牛肉のおいしさを お肉屋さんとして伝えたい

特集

いいたてで 生まれる 新しい風

飯館村に新しい風が吹いています。

この地で新たな挑戦を始めた人達の歩みが、その心地よい風を起こしています。

それぞれの挑戦は、どこから突然に持ち込まれたものではありません。震災後の飯館村を見つめ、見出したものを、大切に育もうとする挑戦です。

飯館村で生まれ育った人もそうでない人も、それぞれに飯館村を大切に思い、「ここ」で新しい何かを生み出そうとしています。

風をたどり、その挑戦の物語を、ここにいくつか紹介します。そこにはいくつかの「希望」の種が見つかるでしょう。新しい風に薫る未来の息吹を感じてください。

「お肉屋さんとして、飯館の牛の肉のよさ、おいしさを伝えたい」。仔牛を含め約150頭の黒毛和牛を飼育する山田さん。自宅の横に設備を整え、精肉店の開店準備を進めています。「常時開けている店ではなく、前日か前々日を目安に注文をいただき、切りたてのものを販売します。今までは塊肉で道の駅やレストランにしか提供できなかったのですが、この場所ができることで、切り分けて販売し、一般の方にも味わっていただけるようになります。用途に合わせてスライスしたりミンチにしたりもできます」。

山田さんが精肉店の仕事と出会ったのは避難先の京都でした。「勉強する時間が持たず、サシがあるからとかどこが産地だとかにとらわれず、おいしいものはおいしいと正直な評価をする。そういうお肉屋さんがあると、農家もそういうお肉をつくる。自分も、県産の牛肉が地位を回復し値段が少しずつでも上がっていくような挑戦をしたいと思っています」。

避難の直後はもとよりその後長い間「村で営農を再開できるイメージが持てなかった」と言う山田さん。「牛舎を建て3年ほど経った頃によくやく」村で精肉店を開業しようと心に決め、建て替えた自宅に家族で戻って来ました。再び村で暮らし始めて半年が経った頃、家族で食卓を囲んだ朝に「あ…本当はこうだったんだ」と感じる瞬間があったそうです。そして今、長い道のりを経て、飯館村に新しい精肉店が誕生しようとしています。

「まだまだ地元の商品が少ない中、少しでも村のものが並ぶようになるといいなと思います。全国の農家と同じ悩みはあるけれど、被災地の農家だからという感覚ではなく、挑戦を続け、農地を守っていきたい」。

精肉店は夏が本番を迎える前に、オープンする予定です。



「あぶくまの草木」を取り入れたスワッグ



Instagram



トルコギキョウの栽培を手掛ける小原さんが、「目黒草花園」として、村に自生する植物の活用を進めようとしています。この春は都内の企業に誘われ、全国の花卉農家と共に植物を使ったオブジェの製作に協力。村で採取した枝葉を「あぶくまの草木」として提供しました。

「復興の一助になれば」と考えています。「不用に思える草木にも、買う側の主観で価値が生まれる。発信の仕方が大事だと思います」。未活用の資源を生かす取り組みは、山林保全につながる可能性も秘めています。

現在は、「あぶくまの草木」を使ったスワッグのワークショップを計画中。講師を招き、村内で活動する仲間とも連携して開催したいと考えています。



トルコギキョウのハウスを増棟。1万5,000本を定植しました。

小原 健太 さん
Obara Kenta (上飯樋)

飯館の里山に新しい価値観を

都内の商業施設に展示されたオブジェ



みんなの思いをつなげる場所に



Instagram

二瓶 麻美 さん
Nihei Asami (大倉)

夫の貴大さんが刃物を製作する「やすらぎ工房」飯館工場で、建物の一部を改修し、「キッチン付きイベントスペース」の貸し出しを始めることになりました。

地域おこし協力隊の任期中から人を呼び込む企画を打ち出してきた二瓶さん。「村に興味のある人が増えてくれたらという思いでやっているのですが、ここに来て完結するのではなく、村を回ってもらえるような仕組みを考えています。みんな一緒に考えて、みんなでよくなっていきたいと話します。

また、この場所を生かして、



貸しスペースと扉でつながるシックなキッチン

人にも地球にもやさしい古民家食堂



古民家の趣きを生かしたくつろぎの店内。メインの料理を盛り付けたお皿をカウンターで受け取り、ご飯や味噌汁、トッピングの副菜は、自分好みに取り分けます。

横山 梨沙 さん
Yokoyama Risa (白石)



地域おこし協力隊となつて1年が過ぎ、草野大師堂に「コーヒー屋の食堂」をオープンした横山さん。時間を分けて食堂とカフェを営んでいます。

「1人でできる範囲を考え、あまり宣伝もせずじわじわとスタートしました」。それでも1人で来た人が次は友人と訪れたり、何度も来てくれる人がいたり、この場所に来ることを楽しむ人が着実に増えています。

利用もある一方で、残菜はほぼゼロに。食材を無駄にしない営業を続けています。「ここに来たら食べられる話もできる、そんな場所にできたらいいなと思っていました。来た方が、今日はいいい日だったなと感じてくださうたら本当にうれしい」。また、調理器具が残った時には無料通信アプリのラインで告知。総菜として販売します。こちらはランチの時間に来られない仕事の人の

コーヒー屋の食堂 飯館村草野字大師堂65
休 月・火曜日定休
時 午前11時30分～午後2時(日替わりランチ)
午後3時～午後5時(カフェタイム)
※土曜日は正午～午後5時(終日カフェタイム)
※営業時間は月により変動する場合がありますので店舗のカレンダーでご確認ください。
☑ coffeepourhouse@gmail.com

予約は取っていませんが10人以上で利用したい場合は事前に相談を。営業中は電話対応が難しいため、連絡は店頭で直接もしくはメールで受け付けています。日替わりのメニューは店舗の窓に貼られたカレンダーでチェック。スマホで撮影しておけば見返せます。なお、食べ放題ではないのでおかわりは別料金です。テイクアウトは容器代がプラスに。弁当箱やタッパー、タンブラーなどを持参すると割引が受けられます。



菊野 里絵 さん

Kikuno Rie (宮内)

株式会社リファー (白石)

菊野さんは東京都出身。東京電力の社員として都内で働いていましたが、消費をするだけの都会暮らしに疑問を持つようになっていきました。福島市の祖母の果樹園でおいしい桃をほおばった幼い記憶に突き動かされ、会社勤めを辞め、伊達市で桃農家になりました。ようやく桃が軌道に乗って始めた5年目に震災。住んでいた場所がホットスポットに指定され、また元東電社員という立場にも苦しみ、離農しました。

もう農業はできないと考えていた菊野さんですが、学習塾の経営などを経て地域活性化に取り組み企業に入り、農業再生プロジェクトのもも飯館村に設立された株式会社リファーで、再び農業に携わることになりました。「飯館村の野菜はおいしいね」と言ってもらえるよう私も頑張りたい。規模を広げ、仲間も増やしていければ、今後は農産物の六次化にも挑戦したいです。村の学園に通う息子の八尋君も、マルシェの出店などを積極的に手伝います。「私なりに使命感を持って、農業に向き合っていきたいと思っています」。

3年目を迎えた菅田地区の農場。ここでさまざまな種類の野菜や花を育てています。事務所は旧白石小学校内に置いています。



おいしい飯館の野菜をつくりたい

育てた苗木を定植する関沢地区の用地にて。



山田 猛史 さん

Yamada Takeshi (関根・松塚)

平野 小みち さん

Hirano Komichi (深谷)

薬用植物×飯館村の未来を夢見て



大学や村民の協力で集めたコブシの種子。1粒ずつ丁寧に土に入れました。

鍼灸師として女性専用の鍼灸ルーム「はり・きゅうカシエット」を営む平野さんは、漢方薬の材料となる薬用植物の栽培を目指して活動しています。実際に栽培を手がけている大学や近隣の漢方薬局などとネットワークを築き、村内で栽培する薬用植物の選定を行ってきました。

くりのスタートです。平野さんは、栽培の師として、山田猛史さんの協力を仰ぐことにしました。平野さんは、獣医師の父康幸さんと共に、小学生の時に家族で飯館村に移り住みました。平野家と山田家は以前から親交があり、平野家にとつて、山田家は「わらじぬぎ」の家だったそうです。その後、も家族ぐるみの交流が続く中で平野さんは成長しました。平野さんが山田さんと一緒にコブシを育てる今回の挑戦は、振り返れば長い物語の続きになる。

4月下旬、山田さんの自宅裏でコブシの種子をトレー内の土に植えつけた。苗木が育ったら関沢地区の畑地に定植する予定です。用地は山田さんが手配しました。苗木が育つのを待ちながら、畑地に肥料をまくなどして定植の準備を進めます。平野さんは、薬用植物の栽培で村内の遊休農地を生かし、さらには村になりわいをつくり出すことも思い描いています。コブシ栽培のその先にも、物語は続きます。

※わらじぬぎの家は、その土地に来て初めて世話になった家のこと。



渡部 沙織 さん

Watanabe Saori (新地町)

SHIRUBE シルベ (伊丹沢)

耕作放棄地から生まれたアロマブランド

「SHIRUBE」は、飯館村を拠点に、ホーリーバジルを活用した商品の開発を行うアロマブランドです。デザイン会社の社員で飯館営業所の所長を務める渡部さんが、新規事業として立ち上げました。耕作放棄地を「残留農薬のない無垢な農地」と捉え、無農薬・無化学肥料栽培でホーリーバジルを育て、商品開発を行っています。

交流人口の増加にも貢献したいと考えています。昨年は、芳香や成分に癒しの効果を持つホーリーバジルの貴重な精油を使ったルームミストや、ほんのり甘く爽やかに香るホーリーバジルティーなどを商品化。またブランドの成長をインスタグラムで発信したり、魅力伝えるワークショップを展開したりして関心層とつながり、種まきなど畑のイベントも企画しています。村内の人とつながりながら、3年目となるホーリーバジルの栽培が、村の農地で始まっています。



Instagram





白組が優勝！
優勝カップを
手にしました

見る側も
手に汗握る
神旗争奪戦



ここにこ
でも真剣に
走っています



力いっぱい
最後まで走り
抜きました



いいたてっ子運動会

5月21日 いいたて希望の里学園校庭



リレーは
白熱の展開



放送席から
心温まる
アナウンス



息ぴったりで本
番を成功させ会
場を大いに盛り
上げた後期課程
の「集団行動」

1年生から9年
生まで、心を一
つにバトンをつ
なぎます



際どい接戦は
ビデオ判定で
確定します



後期課程の100m
走はタイムレース
決勝で順位を決定



ヤマツツジが一面に自生する大火山。多くの人に見てもらおうと、震災前から飯舘村議会OB会が手入れを続けてきた場所です。令和2年度からは福島県森林環境交付金を活用し、村が一連の森林整備を飯舘村森林組合に委託。現在も整備を続けています。今年は気候の影響で例年より見頃が早く訪れました。5月10日撮影の写真です。

本田先生に聴く

うた
こころとからだといのちの詩

第6回

養生の道具としてのワクチン接種

いいたてクリニック 本田 徹 先生



人間は一生のうちには多くの感染症にかかり、乗り越えていきます。その大部分は細菌と、それよりもさらに小さなウイルスによって引き起こされます。昔は、はしか(麻疹)やジフテリアなどの病気がたくさんの子どもの命を落としましたが、ワクチンの発達・普及のおかげで、今や日本ではほぼ克服されています。

ただ、子どものころ皆がかり、軽く済ませていた、水ぼうそう(水痘)のような病気のウイルスが、高齢者の9割も人の体の神経組織内に潜んでしぶとく生き延び、その方の体力や免疫力が落ちるとウイルスが息

を吹き返し、帯状疱疹という厄介な皮膚の病気を起こすことがあります。この病気は、肋間神経や三叉神経(顔の知覚神経)などに痛みを伴う水疱性の発疹を起し、その痛みは発疹が消えた後も、長く神経痛として、患者さんを悩ませることがあります。現在は、ワクチンによって帯状疱疹をかなりの割合で予防できるようになりました。村でほぼ半額の補助が受けられますので、いちばん館でご相談ください。(下記①)

また、普通の社会生活でかかる肺炎の3分の1くらいは、肺炎球菌によるものと言われ、重症化して命を落とす高齢者もおられます。この病気も、65歳から無料で予防接種を受けることができます。(下記②)ぜひお受けになることをお勧めします。

新型コロナウイルス(下記③)も少し下火になってきましたが、次々と変異していくこのウイルスの性質上、気を抜くことはできません。海外では、新型コロナウイルス、子どもを中心とするRSウイルス肺炎、インフルエンザなどが同じ地域で重複して流行することもあり、海外渡航が自由化された今日、十分な対策や予防が必要となります。

最後に、江戸時代の学者貝原益軒先生は、『養生訓』という書物の中で、人の体は、「天地のみたまもの(御賜物)、父母の残せる身なれば、つつしんでよく養ひて、天年(天寿)を長くたもつべし」と述べています。今でも通用する、知恵ある言葉だと思います。

① 帯状疱疹予防接種 (お知らせ版4月5日号に掲載しています)

接種当日50歳以上の方が対象です。生涯で1種類のみを1度限り助成します。(費用の2分の1で、接種1回につき1万円が上限)

② 高齢者肺炎球菌予防接種 (お知らせ版4月20日号に掲載しています)

令和5年4月に村から予診票が届いた方(本年度に65歳・70歳・75歳・80歳・85歳・90歳・95歳・100歳になる方で未接種の方)が対象で、費用は無料。ただし通知が届いた方でも、過去に予防接種を受けた方は公費による接種はできません。

③ 新型コロナワクチン令和5年春開始接種 (対象者に個別通知しています)

現在進められている「令和5年春開始接種」は、初回接種を終了した65歳以上の方、12~64歳で基礎疾患を有する方、医療従事者等が対象です。

■ 各予防接種についての詳細は、健康福祉課健康係 ☎0244-42-1638までお問い合わせください。

ワクチン助成・接種情報



自衛官募集相談員を委嘱

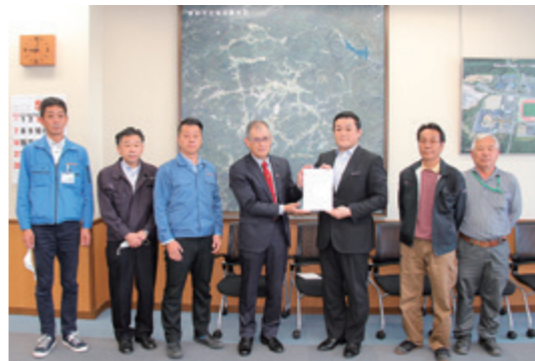
5月18日、三浦盛さん(小宮)に自衛官募集相談員を委嘱しました。11期連続の委嘱です。自衛隊福島地方協力本部・武田智裕副本部長(右端)があいさつし「地域に根ざした情報を」と期待を伝えました。



渡邊守男さん 山田よし子さん

固定資産評価審査委員

5月8日、渡邊守男さん(小宮)、山田よし子さん(八木沢・芦原)に固定資産評価審査委員の辞令を交付しました。固定資産の評価に関する申し立てについて中立的な立場で審査を行っていただきます。



飯館村商工会の要望

5月11日、飯館村商工会(鹿山真広会長/写真左から4人目/深谷)が来庁し、杉岡村長に要望書を手渡しました。要望は、電気料金の高騰により深刻な影響を受けている製造業への支援を求めたものです。



人権擁護委員に感謝状

人権擁護委員の高木久子さん(写真中央/大倉)、藤井美奈子さん(同左端/上飯樋)に福島地方務局から感謝状が贈られました。報告に来庁した両委員は「活動で人とつながり勉強にもなります」と話していました。



飯館村森林組合の要望

5月22日、飯館村森林組合(佐藤長平組合長/宮内)が要望書を提出。森林整備を一層推進するため、森林の多い地域に対し森林環境譲与税の配分を高めるよう、国への働きかけに、村の協力を求めました。



牛乳の消費拡大に協力を

6月1日の「牛乳の日」、6月の「牛乳月間」を前に、県酪農青年研究連盟が来庁。浜酪農青年研究会の田中一正さん(写真左/フェリスラテ代表/長泥)が杉岡村長に牛乳・乳製品を手渡し、消費拡大を呼びかけました。



守時タツミ ピアノコンサート 癒しの音色が村民らを魅了

「ラジオ深夜便」などでお馴染みのピアニスト、守時タツミさんのコンサート『景色の見える音楽会』が、5月13日、交流センター「ふれ愛館」で開催されました。

守時さんの飯館村でのコンサートは今回で5回目となりました。震災後の飯館村をテーマとした「ひぐらし」「秋風に乗って」など13曲が、美しい映像や収録した“自然の音”と一緒に披露されました。村内外から集まった40人の参加者が、守時さんの奏でる美しい旋律に聴き入りました。



(上)コンサート終了後、守時さんを囲んで。
(左)美しいピアノの音色に心が洗われました。

春日部市の『藤まつり』にて 来場者に飯館村をPR

村は、4月23日、埼玉県春日部市の『藤まつり』に出展し、特産品を販売するなどして飯館村をPRしました。同まつりは春日部市民に愛される恒例行事で、コロナ禍の影響で4年ぶりの開催でした。元村役場職員で現春日部市職員の佐藤修さん(写真中央/深谷)、元応援職員で栃木県鹿沼市職員の橋本浩一さん(同左端)が村のブースに駆け付けてくださいました。



約1.1kmの藤棚を藤の花がやさしく彩ります。村のブースにも大勢の方に立ち寄っていただきました。

いよいよ生産拡大 田植え進む「あぶくまもち」

「あぶくまもち」は、県が高冷地向けの品種として開発し、平成21年に品種登録されたもち米です。村も栽培拡大に取り組んでいましたが、震災により中断されました。村は、令和3年に前田地区のほ場16aで実証栽培を開始し、その後立ち上げられた生産組合の協力を得て、「あぶくまもち」の復活と魅力向上に取り組んでいます。昨年収穫した種籾で育苗し、今年は組合員3軒で合計2.3haに作付け。10t以上の収穫を目指しています。5月中旬から、それぞれの水田で田植えが行われました。



5月16日、「あぶくまもち」の田植えを行う森永正男さん(前田・八和木)。ベテランの技でスムーズな作業。

飯館YOITOKO発見!ツアー 田植踊などで飯館の魅力を堪能

4月30日、第3回飯館YOITOKO発見!ツアーが開催され、県内外から30人が参加しました。

ツアーではまず綿津見神社で「八木沢の田植踊」を鑑賞した後、村指定文化財の六字名号供養碑と銅屋場製鉄遺跡を巡りました。

午後には、民家園で漫画家・しりあがり寿さんによる「田植踊の衣装を考える」ワークショップ、高橋日出夫さん(関根・松塚)のビニールハウスで花の収穫体験会が開かれ、参加者が飯館村の多彩な魅力を堪能しました。



(上)ワークショップで描いた絵を手に記念撮影です。
(左)復活したばかりの「八木沢の田植踊」を鑑賞しました。

いいたて結い農園 「宇宙エゴマ」の生産開始

「宇宙エゴマ」とは、一般社団法人ワンアースのプロジェクトで、令和3年に約1か月の宇宙旅行をしてきた飯館村産エゴマのことです。昨年は希望の里学園の児童も参加して、この「宇宙エゴマ」の種まきを行い、一般社団法人いいたて結い農園(長正増夫代表/大久保・外内)が大切に育てました。今年、昨秋収穫した「宇宙エゴマ」を畑に蒔いて、大規模に栽培します。長正さんは「宇宙エゴマには物語がある。さらに大切に組みたい」と話しています。種まきは、5月18日に行われました。



無農薬でエゴマを栽培する「いいたて結い農園」。今年、育苗畑に播種したのは全て「宇宙エゴマ」です。

相馬看護専門学校の学生が 地域看護実習を行いました

5月9日・11日・12日の3日間、相馬看護専門学校の2年生が、飯館村で地域看護実習を行いました。同校は、相馬市・南相馬市・新地町・飯館村で構成する相馬地方広域市町村圏組合が相馬市に開設した専門学校で、村内で実習を行うのは今回が初めてです。3日間で延べ20人が実習を行い、役場職員から地域の現状を聞き、保健師の家庭訪問に同行しました。村を訪れるのは初めてという学生も多く、「実際に来て学ぶことがたくさんあります」と実習の手応えを話していました。



少人数に分かれ家庭訪問に同行。「家族のためにも我が健康は大事だね」と語る千葉実さん(右端/前田)。

やすとし
西村康稔経済産業大臣が長泥地区を視察

5月13日、西村経済産業大臣が来村。杉岡村長が要望書を手渡し、長泥地区の視察も行われました。

村が、物価・燃料価格の高騰対策など「なりわい」への国の支援を求めたのに対し、西村大臣は「多様な取り組みに期待をしている。皆さんが活力をもてるよう引き続き支援していきたい」と応えました。また、要望の後には、「田舎レストランLaKasse(ラカッセ)」の「ナツハゼソースの牛肉ハンバーグ弁当」を味わっていただき、長泥地区の視察では住民の皆さんが環境省の実証事業で栽培した花を贈るなど、前を向く村民のひたむきな姿を伝えました。



もりの駅まごころ『ワクワクマルシェ』

5月4日、加工施設「もりの駅まごころ」で、飯館の「食」を知り味わう『ワクワクマルシェ』が開催されました。「村カフェ753」「田舎レストランLaKasse(ラカッセ)」が立ち上げた企画を実行委員会の主催で実現したもので、飯館村商工会などが一丸となって協力しました。当日は、新鮮野菜の他、大豆やエゴマ、牛肉など村の産品を生かした加工食品や調理品がずらりと並び、来場者が生産者と会話をしながらお気に入りとの出会いを楽しみました。



永井川カフェ 只見線バスハイク

月に一度、多彩な企画で村民同士が交流する『愉快的幸せカフェ永井川』（代表世話人・佐藤俊雄さん／草野）が、5月8日から一泊二日で、バスでお出かけを楽しむ「バスハイク」を実施しました。テーマは『只見線に乗ろう』。参加者17人が、只見町や三島町を訪れ、JR只見線から只見川沿いの新緑の景色を楽しみました。立ち寄った道の駅でタレントのあばれる君に遭遇するサプライズもあり、大変思い出に残る旅となったそうです。



飯館村婦人会の皆さんが奉仕作業

5月11日、飯館村婦人会（長谷川花子会長／前田）の皆さんが、交流センター「ふれ愛館」で奉仕作業を行いました。何年も続く美化活動です。駐車場周りの花壇を中心に、丁寧な草むしりを行っていただきました。

婦人会の皆さんは、今回のような環境美化のボランティアの他、村のイベントなどで地域のための活動を行っています。初夏を思わせる暑さの中、本当にありがとうございました。



一緒に活動する会員を随時募集しています。

5月25日は仲間の1人、佐々木千栄子さん（佐須）が営む「気まぐれ茶屋ちえこ」の貸し室で活動。



竹かごなどに和紙や布を貼り柿渋を塗って仕上げます。

和気あいあいの一閑張サークル

佐藤美喜子さん（関根・松塚）が自宅で行っている一閑張のサークル。佐藤さんが仮設住宅の管理人を務めていた当時、併設のサポートセンターに勤務していた古川節子さん（福島市）が一閑張を習い始めたのがきっかけで、現在は古川さんの看護師仲間が加わり、楽しく交流しながら作品制作を続けています。佐藤さんは「震災で失ったものは数え切れませんが、新しい出会いを得ることもできたのだと感じます」と話していました。

5月の村の動きと主なできごと

- 2日・獣害防護柵管理講習会（交流センター「ふれ愛館」）
- 8日・固定資産評価審査委員辞令交付式（村役場）
- 9・11・12日・相馬看護専門学校 地域看護実習（いちばん館他）
- 9日・IAEA意見交換会（村役場・交流センター「ふれ愛館」）
- 13日・西村康稔経済産業大臣 来村（長泥地区他）
 - ・自主文化事業「守時タツミピアノコンサート」（交流センター「ふれ愛館」）
- 15日・新型コロナウイルス感染症対策本部会議（村役場）
- 17日・県立医科大学保健科学部 実習（いいたてホーム）
- 18日・自衛官募集相談員委嘱式（村役場）
- 19日・農業委員会定例総会（村役場）
- 21日・いいたてつ子運動会（いいたて希望の里学園）
 - ・長泥行政区 集会所落成式（長泥「コミュニティセンター」）
- 24日・子育て応援支援金贈呈式（村役場）
- 25日・いいたて希望の里学園 前期課程の田植え体験（前田・八和木地区）
 - ・定例教育委員会（村役場）
- 26・27日・新型コロナウイルスワクチン集団接種（いちばん館）
- 30日・第1回学校運営協議会（村役場）
- 31日・県立医科大学保健科学部 実習（いいたてホーム）

飯館村ホームページを更新中

昨年12月にデザインをリニューアルした飯館村のホームページに、このたび『イベントカレンダー』が追加されました。イベント情報が随時掲載されていきますので、ぜひお役立てください。また、ポータルサイトとして、村の歴史・文化やグルメ情報を紹介する『飯館YOITOKO発見!サイト』、多彩な記事を掲載するウェブマガジン『飯館村の食と暮らし』も新登場。既存の『移住・定住ポータルサイト』と合わせてご活用ください。

問 村づくり推進課企画定住係
☎0244-42-1613

飯館村ホームページの
トップページから



イベントカレンダーの
タブをクリック!

ポータルサイトは各バナー
をクリックしてね!

7月号から新コーナーが始まります 歴史の散歩道

大館村と飯館村が合併して「飯館村」が誕生する以前から、この地に刻まれてきた長い歴史をたどり、毎回1つのトピックを取り上げて紹介します。連載は次号7月号からスタートします。どうぞお楽しみに。



写真はイメージで村の資料から

交流センターから本を借りて、長く返却をお願いいたします。

問 交流センター「ふれ愛館」
☎0244(42)0072



八和木集会所にて



交流センター「ふれ愛館」だより
交流センター図書報告

令和4年度の図書貸出は1521冊、406人の利用がありました。移動図書館車こあら号に関しては、関根・松塚、草野、佐須、前田・八和木の各地区のサロンや夏休み期間中の学童保育つくしんぼハウスにもお邪魔させていただきました。多くの方にも本に触れてもらい、心豊かになるよう今後も読書活動推進に力を入れていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

いいたて ② イノサル通信

獣害防護柵管理講習会を実施しました!

防護柵が効果を発揮するためには

令和5年5月2日に交流センター「ふれ愛館」において、村の補助を受け、すでに防護柵を設置している方々を対象に、主に正しい管理の方法について、講習を行いました。講師は、福島県避難地域鳥獣対策支援員が務めました。防護柵は、動物の侵入を防ぎ、農作物等を守るためには、非常に有効な対策です。しかし、正しく設置し、適正な管理を継続しないと、防護柵の効果は発揮されません。講習会に参加されなかった方も、改めて自分の防護柵を確認してみましょう。



5月の講習会の様子

① なぜ農作物被害が起こるか	<ul style="list-style-type: none"> ● イノシシやサルはもともと里(低標高)のいきもの。 ● 餌や隠れ場所があれば、集落に出てくる。
② 鳥獣の生態	<ul style="list-style-type: none"> ● 生態を誤解し、むだな対策をしていることがある。 ● 動物の習性や能力を知り、効果的な対策をする。
③ 対策の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境整備、被害防除、捕獲を総合的に実施することが大事。 ● 柵は、設置や管理に不備が起きやすい。
④ 防護柵の設置	<ul style="list-style-type: none"> ● 柵の種類による違いを理解する。 ● 対象動物の目線で、絶対に入れない柵にする。
⑤ 防護柵の管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 柵の周囲を動物が来にくい環境に整備する。 ● こまめな点検と補修で、柵の効果を維持する。



防護柵の効果を維持するためには、まず、周辺環境整備が大切です。周囲に廃棄作物を放置していたり、動物が隠られるヤブがあったりすると、柵が突破される可能性が上がってしまいます。次に、ワイヤーメッシュ柵は動物を物理的に防ぐものなので、破損や弱くなった部分をしっかり補修することが大切です。電気柵は、触った時の痛みにより、動物に嫌な思いをさせ、近寄らないようにさせる心理柵です。365日24時間、十分な電気を流し、侵入しようとした動物が必ず痛い目に合う状態を保ちましょう。

講習会の資料は村産業振興課の窓口で配布していますので、詳細についてはそちらをぜひご一読ください。また、8月には現地実習も含めた講習会も予定していますので、そちらもぜひご参加ください。

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

てつ や たつゆき
鉄谷 龍之 さん

平成31年4月から同支援員。令和3年から飯館村の鳥獣対策に携わり、今年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。

新型コロナ情報

新型コロナの位置付けが5類感染症に

5月8日、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、季節性インフルエンザと同じ5類感染症になりました。これに伴い村の対策本部会議も5月15日の開催をもって定期開催を終了し、役場窓口の仕切りも一部を残して撤去しました。今後は感染予防の対策も個人の判断に委ねられます。基本的な感染症対策は効果がありますので、状況に応じて対策をして引き続き感染にご注意ください。



宿泊体験館きこりく〈宿泊棟・研修室〉再開のお知らせ

改修工事のため休業していた宿泊棟・研修室が、リニューアルオープンしました。

■ 宿泊(素泊り)料金

大人(中学生以上) 1泊5,500円

子ども(3歳~小学生以下) 1泊4,400円 ※添い寝可であれば無料

チェックイン午後3時/チェックアウト午前10時

■ 研修室料金(30名~100名)

4時間以内: 1室3,300円/4時間超: 1室8,800円

※表示価格は税込です。

※宿泊のお客様に限り入浴代無料。

※食事の提供はありません。

※研修室利用の際、備品の利用予定がある場合は事前に相談を。

(別途料金がかかる場合があります)

問 宿泊体験館きこり ☎0244-42-1012 (電話受付午前9時~午後6時)



ひとのうごき

おくやみ

氏名	年齢	行政区
花井 トヨさん	101	伊丹沢
杉岡 茂さん	67	小宮
石井 忠義さん	86	上飯樋
赤石澤 守さん	87	上飯樋
佐藤 キチさん	91	小宮
佐藤 國雄さん	82	二枚橋・須萱
菅野 テツ子さん	89	小宮
伊東 シミイさん	97	関沢



ひとのうごき 令和5年4月30日現在

人口	今月(前月比)	4月1日~30日までの人口動態
●男	2,392人(-1)	転入 11人
●女	2,373人(-1)	転出 9人
計	4,765人(-2)	出生 1人
世帯数	1,806戸(+2)	死亡 5人
		(住民基本台帳人口)

ご冥福をお祈り申し上げます

(4月21日から5月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

地域おこし協力隊
いいたてDIARY
ダイアリー

皆さん、こんにちは!松尾洋輝です。
最近暑くなったり寒くなったりと何を着たらいいか難しい季節ですね 😊

最近、キッチンカー事業のプレゼン資料を作成したり、図図倉庫の休憩スペースを追加したり、そして人生3回目のTV番組の生放送もあり、ほんとあっという間でした 😊

TVを見てくれて、ふらっと図図倉庫を訪れる方も増えてきたので、続けてよかったなって改めて思いました ^^

今後も皆さんとコーヒーを飲みながら、いろんなお話ができれば嬉しいです 😊

また夏に向けて新ドリンクメニューの開発もしていきますので、楽しみにしてください ✨
それでは、また!



今月のライター
飯館村地域おこし協力隊
松尾 洋輝さん

村民広報委員
ふじおさんの
いいたて 宝さがし

第11回

遠い思い出

今回は、佐須の菅野永徳さんと妻・和子さんを訪ねてみました。夕方、急に訪ねたにもかかわらず、心あたたく迎えていただきました。昔話や世間話をしていると、つい時間が過ぎるのも忘れてしまいそうでした。



昔は自宅でボール盤の仕事をしなが、稲作や花(リンドウ)、インゲンなどを作っていたそうです。あまりにも忙しく、インゲン豆を握ったまま眠ってしまったこともあったと、笑いながら話してくれました。

現在は地域の老人クラブの人達と一緒に、ざる菊やダリアの花を栽培して、公民館や道路脇に飾り、月1回のサロンにも参加して、日々を楽しんでいるそうです。夫婦で温泉旅行にもよく出かけ、花巡りなどもしてくるそうです。

日々の暮らしの中で川柳を読むのも好きで、こんな句も見せてくれました。「もう一度 戻ってみよう 出会った頃に」「円満は見ざる言わざる 逆らわず」「ただいまは 昔笑顔で 今寝顔」(シルバー川柳より)懐かしく話してくれた思い出の中に、まだまだお二人の宝話がいっぱいあるんだろうなと想いました。



令和4年のザル菊

子育て応援支援金初めての贈呈式 子どもと子育て家庭を全力で応援します

村の新しい子ども・子育て支援事業に基づく『子育て応援支援金』の初交付を記念して5月24日に贈呈式を行いました。この支援金は小学校・中学校(希望の里学園では7年生) 入学(進級)時に10万円、高等学校入学時に20万円を交付するもので、村に住所があり村外の学校に入学する場合も、村に住所がなく希望の里学園に入学する場合も交付の対象となります。



贈呈式へのご参加ありがとうございました。式の最後に行われた記念撮影。

4組の親子が出席した贈呈式は和やかに行われました。出席が叶わなかった杉岡村長がビデオメッセージで入学のお祝いを述べ「村の希望であり宝である子ども達と子育てに取り組むご家庭を、村をあげて応援していきます」と事業に込めた思いを伝えました。村は、この支援金の他にも赤ちゃん誕生祝い金や奨学金返還免除の制度などを新設。未来の担い手である子どもとそのご家庭を全力で応援していきます。



高橋副村長が支援金の目録と記念品を手渡しました。

贈呈式の記念品は村内で生産されたベーグルとハーブティー



〔編集後記〕
● 広報の完成が近づいたのに1か月が終わる早さを実感します。一方でその1か月のできごとを広報の制作とともにじっくり振り返ることができません。風景の撮影を兼ねて、時間をかけて村内をまわりたいと思いつきながら、広報3年目にしていまだ実現できず…今年こそは、広報のネタ探しの旅に出て、新しい発見につなげたいと思います。(菅野)

● 飯館村でそれぞれの目標に向かって取り組む方々の思いと今に至るプロセスを聞かせていただきました。震災で大きく傷つき多くのものを失った先に、こんなにも豊かな彩りで挑戦が生まれて来る…心を揺さぶられました。飯館村は今も開拓の村なのかも知れません。お忙しい中ご協力をいただいた皆様、本当にありがとうございました。(星)

大火山のツツジ



こちらから▶
大火山に自生するヤマツツジの群生を5月上旬に撮影しました。動画投稿サイトYouTube 飯館村公式チャンネルで空中散歩をお楽しみください。



P12の関連記事もご覧ください。

「ネイティブスピーカーズ 飯館言葉の達人たち」これまでの回は



◀こちらから。次号から新シリーズが始まります。

飯館村 YouTube

